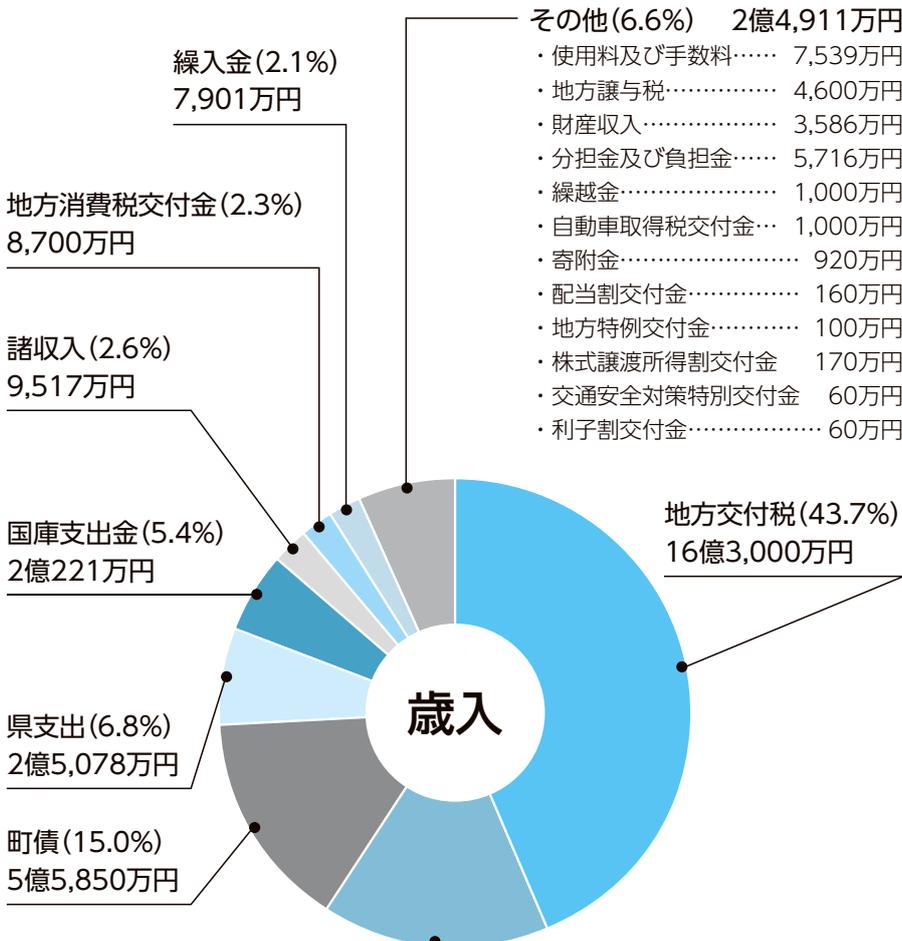


一般会計予算総額 37億2,900万円

当初予算

予算総額 37億2,900万円

31年度の一般会計当初予算額は37億2,900万円です。前年度当初予算と比較して2.3%の増となりました。これはできる限り当初予算に計上して早い時期から実施ができるよう、積極型の予算編成としたためです。歳入については、町税は個人町民税や入湯税について増収を見込み、全体では前年度比1,000万円増額の5億7,722万円を計上しました。地方譲与税では森林環境譲与税を新たに計上し、地方交付税は前年度と同額の16億3,000万円を計上しました。分担金及び負担金では併用林道整備に伴う負担金により、3,336万円増額の5,715万円を計上しました。



- その他 (6.6%) 2億4,911万円
- ・使用料及び手数料…… 7,539万円
 - ・地方譲与税…… 4,600万円
 - ・財産収入…… 3,586万円
 - ・分担金及び負担金…… 5,716万円
 - ・繰越金…… 1,000万円
 - ・自動車取得税交付金… 1,000万円
 - ・寄附金…… 920万円
 - ・配当割交付金…… 160万円
 - ・地方特例交付金…… 100万円
 - ・株式譲渡所得割交付金 170万円
 - ・交通安全対策特別交付金 60万円
 - ・利子割交付金…… 60万円

町税内訳

税目	予算額	構成比(%)
固定資産税	3億5,966万円	62.3
町民税	1億7,504万円	30.3
町たばこ税	1,680万円	2.9
軽自動車税	1,321万円	2.3
入湯税	1,251万円	2.2
合計	5億7,722万円	100

特別会計予算総額 9億2,773万円

会計区分	予算額	増減率(%)
南木曾町国民健康保険特別会計	3億8,120万円	△ 21.4
簡易水道事業特別会計	1億6,144万円	△ 6.5
南木曾町妻籠宿有料駐車場特別会計	3,424万円	9.7
南木曾町宅地造成事業特別会計	471万円	△ 76.0
南木曾町下水道事業特別会計	8,252万円	△ 24.7
南木曾町農業集落排水事業特別会計	7,685万円	3.4
南木曾町浄化槽市町村整備推進事業特別会計	1億1,072万円	9.4
南木曾町後期高齢者医療特別会計	7,605万円	2.8
特別会計合計	9億2,773万円	△ 13.1



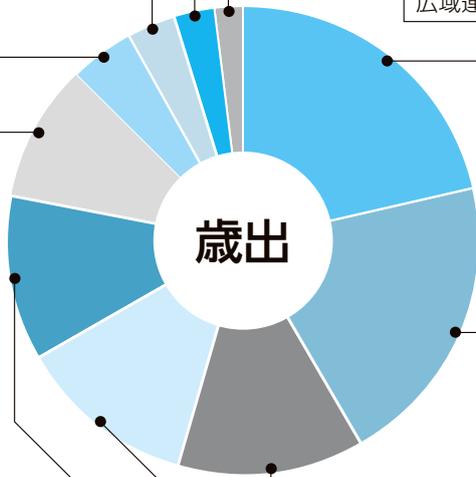
消防費(3.3%)	1億2,377万円
消防団運営経費	3,473万円
防火水槽整備	809万円
普通積載車整備	1,144万円
防災行政無線デジタル化事業(移動系)	6,600万円
河川監視カメラ設置事業(木曽川)	100万円

衛生費(4.4%)	1億6,261万円
予防接種事業	902万円
母子衛生事業 (不妊治療・乳幼児健診・5歳児健診等)	631万円
健診事業 (がん・さわやか・いきいき等)	1,128万円
美しいまちづくり・ポイ捨て監視事業	226万円

商工費(2.9%)	1億917万円
南木曽駅運営経費	300万円
観光協会法人化事業	300万円
眺望景観整備事業	130万円
観光地整備事業	100万円

その他(1.7%)	5,987万円
・議会費	3,652万円
・予備費	2,034万円
・労働費	301万円

総務費(21.5%)	8億128万円
庁舎修繕事業(重油タンク改修)	300万円
公用車更新事業	350万円
空家活用対策	120万円
広域連携事業 木曽病院線負担金	637万円



農林水産業費(9.6%)	3億5,959万円
中山間地域直接支払制度交付金	3,684万円
多面的機能支払交付金	1,024万円
JR 跨線橋耐震改修計画策定	1,600万円
与川大橋耐震設計事業負担金	910万円
小水力発電事業	1億1,300万円
有害鳥獣対策事業(実施隊等)	735万円

公債費(11.3%)	4億2,260万円
-------------------	------------------

土木費(12.3%)	4億5,940万円
国土強靱化対策事業(沼田線)	5,280万円
町道維持補修事業	170万円
町道舗装事業 (蘭広瀬線、塚野線、新山沢線等)	5,020万円
町道新設改良事業 (向栗畑線、本谷線等)	9,500万円
橋梁維持補修事業 (南沢橋、高橋、桃介橋修繕等)	1億1,400万円
町営住宅除却工事(住吉団地)	400万円
町営住宅火災報知器取替事業	200万円

民生費(20.2%)	7億5,221万円
社会福祉協議会運営費補助金	1,224万円
介護予防・日常生活支援総合事業	1,069万円
生活支援体制整備事業	1,020万円
総合福祉センター整備事業	1,263万円
ひだまり工房車両更新	400万円
乳幼児・児童医療費	1,090万円
児童手当	5,079万円
保育園空調設備整備事業	3,000万円
すこやか子育て支援事業補助金 (保育料減額助成)	400万円

教育費(12.8%)	4億7,850万円
蘇南高校支援事業	900万円
ICT教育タブレット購入	300万円
中学校体育館長寿命化事業	1億1,100万円
街なみ環境整備事業計画策定	140万円
空家対策支援事業(妻籠宿場内)	3,100万円

平成31年度

町長施政方針(予算編成方針)要旨

3月7日の3月定例議会冒頭での町長による施政方針演説です。
* 抜粋または一部要約して記載しました。全文は町ホームページで見ることができます。

平成を振り返りながら

平成の時代は、社会情勢の大きな変革期となりました。なんと言っても、日本の人口が増加から減少に転じたことがあらゆる分野に影響を及ぼし、少子高齢化による急激な人口減少の波が国全体を襲い、我が国の将来に大きな影を落としています。(中略)我が町における出生数は、昨年度が16人、今年度が20人の見込みとなっています。27年度に定めた地方創生総合戦略では、2060年でも1学年20人の子どもを維持することを目標としましたが、計画策定から数年で早くも黄信号が灯っています。南木曾町にとって、人口減少対策は待ったなしの喫緊の課題となっているわけですが、計画を確実に進めつつも見直しやペースアップも加えて、効果的な施策としてはなりません。あらゆる施策・事業が定住推進につな

がるよう、新年度においても最優先課題として取り組んでいく覚悟です。

平成はまた未曾有の自然災害が多発した時代です。(中略)長年にわたって防災対策に取り組んできた我が町においては、防災力が高まって来ているとはいえ、引き続きハード・ソフト両面から取り組みを進め、災害をかわし災害に負けない、安心で安全な地域を目指していきます。

平成17・18年をピークとした平成の大合併では、南木曾町は町村合併協議や住民投票を経たうえで自立の道を選択しました。自立の道は、自治体として単独存立の方策をとったことに留まらず、住民の皆さんが一体となってまちづくりをしていこうという意思の表れでもありました。

ここに住む人々が安心して暮らし、希望を持ち、若い世代が住みたいと思えるような魅力あるまちづくりのための

施策が必須、かつ急務の課題です。魔法のランプのように夢をすぐに叶える方法などはありませんが、出来ることを地道に積み重ね、行政・議会・住民が一体となってこの困難な時を乗り越えて行かねば成りません。決して楽な道のりではありませんが、皆さんと共に頑張っていく決意です。引き続きのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

国の財政動向(地方財政対策など)、南木曾町の財政状況

(中略)できる限り当初予算に計上して、早い時期から事業に向き合う事が出来るように積極型の予算編成を心がけました。(中略)

定住化から元気を「快適な社会基盤のあるまちづくり」

(主要施策を要約)定住化推進の具体策として



町営住宅の建設、ミニ宅造事業を積極的に推進してきました。今後も住環境整備には目を向けていく予定ですが、現状や意見要望も踏まえながら既存町営住宅の改修なども含めて進めていきます。

空き家等対策計画に沿って活用すべきもの、取り壊すべきものを協議会で検討して進めていきます。32年度にケーブルテレビのFTTH化・光化工事を行うための準備を進めます。国は国土強靱化を目指した集中投資を行うことから、この動きに合わせた中で砂防・治山・道路防災・河川整備などの事業が出来るように対応します。木曾川の増水対策についての要望、河川水位計や監視カメラの整備を行います。地域防災力向上のために消防ポンプ積載車と消防移動系無線の更新、防火水槽整備を進めます。31年度は木曾郡ポンプ操法ラッパ吹奏大会を当町で開催します。国県

道の大型工事推進による早期整備への取り組み。町道の道路防災、橋梁の耐震補強等の実施。木曾病院線を見直しながらも継続運行し、市民病院への交通手段については協議を関係機関と進めます。地域バスに障がい者割引を導入します。リニア中央新幹線整備は、基本協定や補償交渉について本格化することに対応する一方、開通時を見据えた地域活性化策をまちづくりにも活かします。

安定した配水のために簡易水道テレメーター施設を更新。小規模水道は、施設ごとの意見を集約し将来的な見通しが立てられるようにしていきます。下水事業による水洗化と環境衛生の向上に努めます。クールチョイス宣言をもとに一層のごみの減量化、リサイクル推進を図ります。読書細の洞地区での小規模水力発電工事を本格化させるほか、再生可能エネルギーの活用について調査を進めます。自然眺望景観保全事業による景観保全に努めます。特殊詐欺、消費トラブル防止のための電話機器導入の助成、高齢者の運転免許証自主返納の推進を図るとともに、交通死亡事故故

口の連続記録を継続するため
に警察や安協との連携に努
めます。

元気にいるおいのある まちづくり

(主要施策を要約)

「働く場所がない」「仕事がない」。少し前に我が町で言われていた言葉です。しかし、今は「働く人がいない」状況となつています。働き手不足が深刻化する中ですが、地域経済を活性化させるための取り組みにも目を向けていきます。

森林環境譲与税の創設に対応可能な組織作りを行います。町有森林有林整備の受け皿として森林組合を中心に搬出間伐作業などにより民有林振興を図ります。有害鳥獣対策や木質バイオマス利用研究に取り組みます。後継者不足から農地の荒廃や生産量減少に悩む農業においては、中山間地直接支払制度や多面的機能制度を活用しながら、意欲ある農家をサポートし、新規作物導入の研究、パイプハウス整備助成、畜産振興などを行います。厳しい状況に置かれている農林業を守り、支援することは、中山間地域や集落を

守ることにほかなりません。商工業では、声を聞きながら地元企業や商店の承継を指して商工会が研究を進めるショッピングセンター構想に町としても関わります。「お茶だにい〜」が予想を上回る注文となりました。特産品開発、食材・土産品開発に取り組み事業者と研究を重ねるとともに、伝統工芸品のブランド化を推進します。消費税引き上げへの対応策としてプレミアム付き商品券を発行して、地域経済に波及効果をもたらします。キャッシュレス社会

の進展にあわせカードリーダーの導入などに向けた啓発を行います。観光協会の法人化と体制強化のための諸費用を盛り込みました。インバウンド対応策として、多言語対応やカード化対応を推奨するほか、オンラインショップ開催に合わせたプロモーション、中山道を通じた他地域との連携を推進します。妻籠宿や美しい村連合のブランド力・組織力を活かした広域観光や、田立地区で進めている農泊事業では、滞在型のアウトドアスポーツ体験が可能となるように町も協力します。国県の移住就業支援交付

金制度を活用して町外からの就業者確保も行います。

元気に育てなごそっこ

(主要施策を要約)

今や無子高齢化という言葉さえ使われる時代となりました。深刻な少子化の現実を真摯に受け止め、今こそ若い世代が子どもを産み育てやすい環境を整えていくための取り組みを急がねばなりません。これまでも様々な子育て支援策を実施していますが、更なる充実を目指して粘り強く取り組んでいきます。

子育て世代包括支援センター開設に向けた準備を進めます。保育所の幼児教育施設としての位置付けも明確にし、就学後のつながりを大切にしていきたいと思います。保育所審議会からの、統合を見据えた保育所のあり方についての答申をもとに、保育サービスの研究を深めて、少子化対策の一助となるべく取り組みを行います。時代の流れを見ながらも保護者の声、地域の声にも耳を傾け、検討を重ねながら南木曾町の保育の方向性を示していきます。

検査への助成、無償の親子歯科検診の実施、保育園給食費の無償化、中学校学力検定試験への補助制度、中3・高3のインフルエンザ予防注射無料接種など、目に見える形で子育て支援を実施しています。新たに出産後のケアが必要な母子への支援、風疹予防対策を行うとともに、子ども医療費の完全無償化に向けて研究をします。小中学校の入学児童・生徒に入学祝品をお渡しできるよう予算計上をしました。入学祝いの記念品の選定について、関係者と協議を進めます。小中学校・保育園のエアコン整備を可能な限り早い時期に行うよう努めるほか、放課後子ども教室の更なる充実を図ります。

支援を必要とする子どもに対して、各部署横断的に連携かつ一貫した支援体制を築きます。新学習指導要領の実施に伴うICT教育に対応するためタブレットを配備して情報教育を推進します。蘇南高校の魅力をより高めるために引き続き町独自の支援策を継続して協力的体制を強化します。旧蘭小学校を活用した通信制高校の誘致については、32年度開校に向けた準備に協力していきます。

健康で元気なハッピー ライフ

(主要施策を要約)

一人一人が健康で幸せな生活を送れるよう、地域医療・地域福祉向上のための取り組みと、地域の支え合いによる健康づくりを推進していきます。

坂下病院の機能縮小が避けられない中、住民アンケートや医療関係者との懇談などの声を参考に影響を最小限にとどめるための取り組みを行なっていきます。木曽病院との連携協力体制を深め、身近な病院となるように協議や話し合いを重ねます。広域的な救急医療体制の確保とヘリポートの活用について検討を続けます。町内医療機関の意向や利用者の意見などを踏まえて、町のお医者さんを守るための取り組みを行います。ワンコインで検診が受けられる！各種事業や「健診受けようキャンペーン」の呼びかけの成果もあり受診率が向上しており、今後の医療費の抑制につながることを期待されます。町の独自補助による健診料の負担軽減で一層の受

診率向上を図り、早期発見・早期治療によって誰もが健康な生活が出来るように取り組みます。

高齢者福祉については、社協をはじめ関係機関と連携して介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業等を実施、生活支援コーディネーターの配置と体制の充実を図ります。認知症対策は医療機関とも連携を深めながら見守りサービスを充実させて介護者の負担軽減に努めます。特養老木曾あすなろ荘の運営状況にも注視して、施設が維持できるような協力を図っていきます。障害者福祉では、障害者の日常生活や就労面などで支援を図ります。

空手の世界チャンピオン武儀山舞さんの活躍は、町中を元気づけてくれました。多くの若者がスポーツを通じて活躍しています。「なぎそチャレンジクラブ」との連携を密にした運営支援体制を継続し、スポーツを通じた心と体の健康づくりを推進します。妻籠健康マラソンを継続支援する中で、将来的な運営のあり方を関係者と探っていきます。妻籠分館を町並み交流センターとして整備するにあつ

て、木造建築で地元の材木・業者を活用できるように、林業・木工関係者にも当初から加わってもらいながら準備し、小さくても地域経済が回るような仕組み作りを探ります。妻籠地区の町並みや文化財整備にあたっては、街なみ環境整備事業を取り入れて財源確保と、先送りしてきた町道整備、防災管理修理、中山道防災工事などの計画策定を行います。文化財保護については、各種調査や保存事業を進めるとともに、博物館の充実した運営に努めます。

みんなが元気で主役のまちづくり

(主要施策を要約)

今こそ地域や隣近所の付き合いを大切に、田舎の良さである人と人とのつながりや絆を守り育んでいかねばなりません。「助け合う」「協力しあう」「お互い様」といった長年にわたって培われてきた相互扶助の精神や、コミュニティ活動などをまちづくりや地域に活かしていきます。第10次総合計画では自立推進計画を組み込む形としましたが、地方自治体を取り巻く厳しい状況から自助・共助・公

助の基本姿勢を継承します。

また、若者まちづくり会議や地域おこし協力隊の採用など、若者の活躍の場づくりを積極的に進めていきます。住民と行政が情報を共有できるように、広報誌やホームページを一層分かりやすく読みやすいものにした。町政報告会やミニ集会などを通して意思疎通を図ります。老朽化が進む公的施設については、公施設管理計画をもとに個別計画の策定を進めて適正な維持管理と活用を図ります。

計画的効率的な財政運営と、コンプライアンス順守による適正な事務執行に努めます。職員の資質向上のためにも人事評価制度や各種研修を積極的に活用し、国が推進する働き方改革に必要な対応を順次進めてワークライフバランスのとれた環境づくりに努めます。

結びに

冒頭で申し上げたように、間もなく平成の時代が幕を閉じようとしています。振り返ってみれば、戦後の昭和の時代はモノの時代でした。道路が良くなり建物が新しく出来て、身の回りのモノが目に見

えて豊かになった時代でした。平成になるとインフラ整備以上に急速にIT機器や情報通信機能が発達し、パソコンや携帯電話の普及が私達の生活や暮らしを大きく変えた。ソフトの時代とも呼ぶべき時代でした。多機能を併せ持つスマートフォンやAI、IoT、ビッグデータの登場は、これからも私達の生活に大きな影響をもたらすことでしょう。

その一方で、少子化・高齢化とともに日本社会は急激な人口減少社会となり、先行きが不透明な、まさに手探りで進む状態となりました。そんな中でも私達は故郷を守り、次の世代に町や地域を引き継いでいかねばなりません。そのためには世の中の流れを見ながら足元も見つめ、引き継いでもらえる人材や若者を育てていくことが必要です。諸課題に対する答えが簡単に見つからなくとも、現実に向き合うことを忘れず、道を切り開くための努力を怠ってはなりません。

今こそ時代に負けない人の知恵と対応力を発揮すべき時代です。新たな時代は人の時代にほかなりません。みんな

アイデアを出し合い、工夫を凝らしながら、時には、これまでとは違うことにも勇気を持ってチャレンジし、進路を見い出さねばなりません。苦しくとも道は必ずあるはずで。いつの時代にも時々の課題があり、先人たちも力を合わせて乗り越えて来ました。今こそ職員はもとより、議会、住民の皆さんと手を携え、一体となって困難に立ち向かい「住んで良かった、暮らして良かった、住むなら南木曾町」と言えるまちづくりを目指していきます。

平成の次にやってくる時代をしっかりと受け止めつつ、平成31年度の諸施策を実行するものとなるよう努めてまいります。議員各位をはじめ町民の皆様の一層のご理解ご支援ご協力をお願いしまして、年度当初の施政方針とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

力をあわせて頑張りましょう。ご清聴ありがとうございます。

平成31年3月7日
南木曾町長 向井ひろあき